

# Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



編集長が愛用していたボクシンググローブ

## 《 Tyson 》

今回は 11 月 15 日に 19 年ぶりの公式戦のリングに上がったボクシングの元ヘビー級王者マイク・タイソンと NY の喧嘩の話。NY 生活の中で、直接殴り合いの喧嘩をすることはなかったが、一度だけ、ウェイターとして働いていたレストランの外で、ウェイター仲間が 4~5 人の若者と取っ組み合いの喧嘩になった。

ディナータイムが始まった夕方頃だったと記憶しているが、レストランの入り口からふらっ〜と入って来る 1 人の若者がいた。酔っ払っているのかクスリで飛んでいるのか分からなかったが、支離滅裂なことを言っていたため直ぐに普通の客ではないとわかり、ウェイター仲間の 1 人が外に連れ出そうとその若者を入口から外に促した。

自分もその様子は見届けていたが、店内の裏手奥にある座敷の客への対応のため、その場を離れた。2~3 分後にフロアに戻してみると、窓越しにウェイター仲間がさっきの若者の仲間であろう 4~5 人と大立ち回りをしている光景が目に入った。近所のストリートには警官もいたためか、止めに行く間もなく喧嘩は収まり、ウェイター仲間も大きな怪我もなく、そのまま仕事に戻った。結局何が原因だかよく分からなかったが、事件に発展しなかったのは不幸中の幸いだった。

当時のマンハッタンは、場所によってかなり治安が悪かったため警官の数もそれなりに多く、頻繁にはなかったが、地下鉄の車内や街角で時々殴り合いの喧嘩を見かけることはあった。酔っ払いやクスリ絡みの喧嘩が多かったのかも知れないが、アメリカは銃社会のため、素手での喧嘩はまだマシだったのかも知れない。

肝心のマイク・タイソンだが、当時は現役バリバリのヘビー級王者だった頃で、一度だけアップパーウエストのジャズ・クラブで生タイソンを見かける機会があった。あのタイソンも身長は 178 cm だったため、大柄の人が多い NY の中では目立つほどではなく、そのジャズ・クラブでも 10 名程の大柄な SP や取り巻きに囲まれていたため、微かに顔を確かできた程度だったが、独特のオーラを放っていた。

自分も子供の頃からプロレスやボクシングをはじめ、格闘技を見るのが好きだった。また、シアトルに住んでいたアメリカ人の叔父が元プロボクサーだったため、その叔父の影響もあって、帰国後に 30 代半ばからファイティング原田ボクシングジムで長年お世話になったが、今思うと、20 代の時に NY に付む映画「ロッキー」などに出てくるような古ぼけたボクシングジムでトレーニングがしたかったと後悔している。

今回、58 歳でリングに上がったタイソンは、27 歳のユーチューバー＝ジェイク・ポールと闘った。結果は 3-0 の判定でタイソンが負けたが、テキサスの AT&T スタジアムには 7 万 2300 人のファンが詰めかけ、試合を中継した Netflix は世界中で 1 億 800 万人が視聴したそうだ。タイソンはこの 1 試合で約 30 億円稼いだそうだ。自分も 30 億円頂けるなら、NY 時代からそんなに変わらないギリギリの生活から抜け出すべく、必死にトレーニングしてリングに上がるだろう。

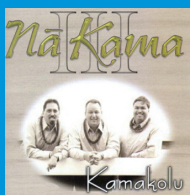
# Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

## Les Murakami Stadium

### レス・ムラカミ・スタジアム

今回はオアフ島ホノルルに付む「レス・ムラカミ・スタジアム」。1984 年にホノルル市マノアにあるハワイ大学のホーム球場として建設された。野球チーム「レインボーズ」の球場であったため、当初は「レインボー・スタジアム」と呼ばれていたが、30 年間監督を務めたレス・ムラカミ氏の名前を冠して 2002 年に改名された。レス・ムラカミ氏は伝説の野球人として知られ、2016 年に当時北海道日本ハムファイターズの監督だった栗山英樹氏と対談している。のんびりと野球観戦するには最適なスポット。

## 《 ハワイな一枚 》



### カマコル ナ・カマ

Makani Records [Import CD]

ブライアン・マーズベリー、ダニー・ナイボ、エリック・リーの 3 人で結成されたハワイアン・トリオ＝ナ・カマが 2006 年に発表したアルバム。全 12 曲収録。